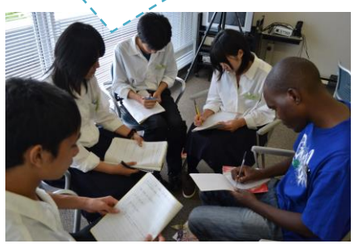
東高 国際だより

平成２６年１０月１０日
京都府立東舞鶴高等学校
国際教育部発行
2014 vol.6

２年国際文化コース JICA 訪問報告（９月 10 日）

JICA とは、Japan International Cooperation Agency の略称で、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。先日２年４組の生徒が、JICA 関西（神戸市）を訪問し、国際協力、開発教育、異文化について学んできました。

世界各国からの研修生と交流し、出身国について質問をしたり、日本の文化を紹介したりしました。なかなか英語が通じなくて苦労したけど、しっかりと交流できました。



各国の民族衣装を試着させていただき、異文化体験を満喫しました！

文化祭で発表したソーラン節を研修生の方にも披露しました。

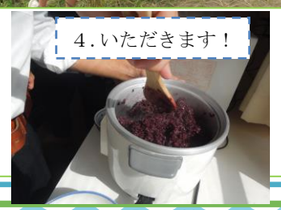
３年国際文化コース稲刈り実習及び収穫祭（９月 17 日と 10 月１日）

総合学習「日本文化」の授業で稲刈り実習を行いました。５月の田植えから４か月がたち、立派に実った稲を大切に鎌で刈りました。今回も、地元農家の椋本和明さんから、稲の刈り方や束ね方のポイントを学びました。後日、収穫祭を行い、収穫した古代米をおいしくいただきました。

１．稲を刈って

２．束ねて

３．稲木（いなき）にかける



４．いただきます！

感想

○当たり前のように食べているお米の一粒一粒の大切さを実感しました。
○すべてを手作業で行ったので、昔の人の苦労がよくわかりました。

今回は地歴・公民科の金田吉孝先生からです。

３年国際文化コースおもてなしボランティア報告（９月 22 日）

大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の外国人観光客の方への観光や買い物のお手伝いを行いました。英語学習の一環として取り組み、学習の成果を試すよい力試しの機会にもなりました。

感想

○オーストラリア英語など様々な英語に触れることができました。
○ショッピングできるところや Wi-Fi（無線 LAN）を探している方が多かったです。舞鶴にはそのような場所が少ないと思いました。
○自分の英語力はまだまだだと感じたので、もっと頑張ろうと思いました。
○自分の言ったことが相手に伝わって会話が成立した時、とても嬉しかった。
○舞鶴はもっと英語表記を増やして、外国人に対してのサービスを向上させるべきだと思いました。

お知らせ

京都府立高等学校 英語スピーチコンテスト出場者決定

毎回、東高生が北部予選を突破し、本選へ進んでいるスピーチコンテストです。10 月３日（金）に校内予選が行われ、以下の２名が選ばれました。本選出場を目指して頑張ってきます！

１年５組森本和樹君（城北中出身）
２年５組坂口瑠依さん（青葉中出身）

予選　11 月　1 日（土）京都府立園部高校
本選　11 月 15 日（土）京都市立伏見工業高校

ハロウィーン

Alex 先生からのお知らせ

Halloween is my favorite celebration in Canada. When I was a child, my brother and I would dress up and go “trick or treating.” This is when you knock on your neighbors’ doors on October 31st and ask for candy. We would then have enough candy for a whole year. Please come and say “trick and treat” to the English teachers to get candy!!

10 月 31 日（金）に、教室外で英語科の先生に、“trick or treat!”と声をかけ、英語の質問に答えたら、お菓子がもらえるよ！（お菓子がなくなり次第終了）

異文化の風　このコーナーでは様々な国や地域の文化についての情報をお届けします。

中国にて

私は、学生の時、中国の西安に留学していたことがあります。その時、感じた日本との大きな違いは、中国の人たちのおおらかさでした。例えば、中国のバス停には時刻表がありません。だから、いつバスが来るかわかりません。近くの人に聞いてみると、返ってくるのは、「馬上（マーシャン：もうすぐだ）。」の一言だけで、それから１時間くらいバスが来なくても、あまり、あせる様子がありません。また、バス停以外の場所でも、わりと自由に乗り降りさせてくれます。一度、バス停が見つからず困っていると、たまたま、目的地行きのバスが通りがかり、それを眺めていると、運転手が気づいてくれて、その場で乗せてもらえたこともありました。このおおらかさが、つらいと思う時もあれば、ありがたいと思う時もありました。

日本と中国どちらが優れているというのではなく、どちらにもその常識を生み出す文化的な背景があり、それぞれに良さがあります。また、私にとって中国での生活は、自分の中にある日本的なものを自覚する機会になりました。異なる文化の中に身を置くことは、自分自身のもっている文化に気づく機会になると思います。

「国際だより」は下のＱＲコードからもアクセスできます。

次回の「国際だより」は、１１月１０日頃に発行する予定です。